

宇部市文化振興まちづくり審議会 概要

日 時：令和 6 年(2024 年)7 月 24 日（水）13:30～14:55

場 所：市役所 5 階 第 1 委員会室

出席者：委員 9 人（欠席 1 人）

事務局：観光スポーツ文化部：青山部長、森本次長

文化振興課：中祖課長、伊藤副課長、越智副課長、上田文化振興係長

学びの森くすのき・地域文化交流課：石川副課長

1 開 会

2 議 事

（１）「文化振興ビジョン（第三次）」2023 年度取組実績について

（２）「文化振興ビジョン（第三次）」2024 年度取組計画について

文化振興ビジョン（第三次）の進捗状況の 2023 年度取組実績及び 2024 取組計画について、事務局より説明。

会長：目標指標の「1 年間に 1 回以上文化を鑑賞したことがある市民の割合」が 82.3% となっているが、この数値を算出した母数はどのくらいか。

事務局：インターネットによる市民モニターアンケートで実施した。市民モニター数は 909 名、そのうち 293 人から回答があり、回答率は 32.2%となっている。

会長：どこまでが芸術か、線引きは非常に難しい。文化を鑑賞したことを数字で表すことへの疑問もある。数字の視点も大切だが、母数が少ないのが気になる。

文化振興の役割とは、多くの市民が文化的な教養のある人間になってほしい、多様な価値観を習得してほしい、というところだと思う。市の業務としては目標が必要と思うが、もう少し長い目で見て数字ではない部分もあって良いのではないかと考えた。

委員：全小学 4 年生対象の野外彫刻鑑賞がとても良いと思っている。ガイドの説明も押しつけではなく、子どもたちも聞きたいことを聞いて、遊びながら自然に話をしていた。これからも継続してほしい。

「施策 1 項目 8 子ども文化夢教室」は、同様の事業を学校で手配するのは難しいので、助かっている。子どもたちもダンスなど体験できて、興味や自信につながっている。

「施策 4 項目 43 宇部市デジタルミュージアム」は、今、学校では 1 人 1 台タブレットを活用している。これからの子どもたちは更にデジタルに強くなっていくと思うので、提供する側も写真を集めるだけでなく新しい技術を取り入れていってほしい。

委員：「施策 2（4）彫刻によるまちづくりの推進」で、彫刻の移設や定期的なメンテナンスを実施されていて素晴らしい。

自分自身が表現する側に回って実際に運営に携わる素晴らしさを知った。その体験を活かしてこれからも宇部市に貢献していきたい。

委員：「施策1 項目8 子ども文化夢教室」は良い事業だと思う。私はずっとフォークダンスをやっているが、この5月に市内のある学童保育から依頼を受けて、フォークダンス教室を実施した。初めて直接子どもたちに指導したが、子どもたちは非常にパワフルで圧倒され、楽しい経験となった。それを踏まえて、「子ども文化夢教室」を実施して、子どもたちがどう感じたかを知りたい。アンケートを取って、次にどんな文化活動に興味を持ったか分かれば次に活かせるのではないか。

委員：「子ども文化夢教室」で、活動を選んで体験できるというのは良いと思う。

昔関わっていた団体について、今でもまだ問い合わせ先が分からないと言われることがある。そういった、団体のリストがあると子どもたちも体験の選択肢が増えるし、団体の関係者が高齢化していった時に引き継ぐこともできるのではないかと思った。

会長：文化というのは自己表現ではあるが多様性も必要なので押しつけになってもいけないので難しい。

ところで、宇部まつりでは文化的なこともやっているのだろうか。

事務局：パレードでの南蛮音頭やステージでのダンス等、参加者が様々な表現活動をしている。他にも高校生などが自分で考えたブースを出すなど、色々な要素がある祭りとなっている。

委員：宇部市の文化を語る時に石炭は基本だと思っているが、ビジョンには石炭が出てこない。文化財の中に含まれるのかもしれないが、きちんと項目として記載してほしかった。

会長：市では、毎年数値目標を設定する、年次計画のようなものがあるのか。

事務局：一番上位の総合計画があり、そこから各部署がそれぞれの目標を設定して業務を行っている。その中で客観的に評価できる数値目標を設定せざるを得ないが、文化という性質上設定しづらいところもある。数字上達成したから良いということではなく、年度ごとの目安だと思っている。大きな流れの中で、子どもたちが様々な文化に触れることで、心の豊かさや人間力を育てていってほしいと思っている。

会長：アンケートの取り方も考えてもらいたい。例えば、宇部で育って一度他市に出た人や、他市から新たに宇部市に来た人など、違う視点の意見をもらえと思う。

事務局：市民モニターアンケートの設問は、基本はビジョンの指標に沿った内容で考えているが、追加はできると思う。子ども文化夢教室で、子どもたちの反応や感想というご意見もあったが、それは実施団体の文化創造財団が実施ごとにアンケートを取り、その内容を次回以降の実施時に活かしていると聞いている。

委員：目標に対して実績値が上回れば担当の部署は成功だと言える、そのためにアンケートを取っているのではないかと感じた時があった。数値ではなく本当に市民に浸透しているか、ということではないかと思う。

会長：意見を記載した付帯資料があればもっと分かりやすいのではないか。

(3) 第30回UBEビエンナーレ開催について(報告)

第30回UBEビエンナーレ開催について、事務局より説明。

質疑なし

(4) 意見交換

会長：資料を基に全体的にご意見やアイデアがあれば伺いたい。

委員：「あしながおじさんプロジェクト」予算を活用した「夏休み子ども課外クラブ」で、ピアノ・琴・ダンスの教室を実施しているが、年々応募者が増えている。定員を超えても先生方をお願いしてやっていただいている。「あしながおじさんプロジェクト」は寄附で成り立っている事業だがなかなか寄附が集まらないという課題がある。良い案があればいただきたい。

また、財団として活動する中で、観光の部署とも一緒に活動できれば面白いのではないか思っている。

委員：文化はお金と時間がかかるものだと思っている。従って、短期的にも税金を使っている部分があるならば結果を求める意見があってもそれは否定できないが、数字だけでなく、アンケート等で集めた意見をもっとオープンにしてほしい。

子どもたちにとって、本物に触れることはとても大事だと思っている。そういう体験をした小学生が大人になった時にどれだけその体験したことが生きてくるか、ということが、成果が試されるところではないかと思う。

委員：ビエンナーレの応募模型展が好きで、色々なところで開催したら良いのではと思っている。本展の期間中に同じ場所で開催しなくても、市街地で「まちなかビエンナーレ」みたいな感じで置いていくと、見やすいし面白いのではないか。市内の会社などにも模型なら置いてもらえるところもあるかもしれない。それでより多くの市民に周知できるのではないかと思う。

また、作品が200点を超えてくるとそろそろ廃棄の検討も必要な時期に来ているのではないか。

委員：宇部空港の最寄り駅は草江駅だが、あまり知られていない。宇部空港からのアクセス情報などをもっとわかりやすく宣伝していくと良いと思う。

委員：そこに行けば宇部市の全てが分かる、宇部市の歴史がわかる、そういったポイント、場所があると良い。宇部の観光にしても、例えば空港からときわ公園などへのルートがもっと周知されていれば良いのではないかと思う。